

健友俳壇 第二十三回

(令和七年七月)

健友俳壇は、会員の皆様が気軽に参加できる事業として、23回目となりました。今回は、「春の健友旅行」が実施されました。

「一般の句」64句、「旅の句」17句の投稿があり、板橋区俳句連盟の上田 桜(うえだ さくら)氏に選句と講評をいただきました。

一般の句

●特選(二句)

五月用 農事放送 消えた里

武居 正次

農業に関する事柄を放送して村全体に知らせた。過疎化が進み、今ではその放送もなくなった。

釣り人の 影なき漁港 春疾風

茂木 良一

釣り人で盛んな漁港ではあるが、今日ばかりは荒れ模様。人影も形もない淋しい漁港である。

●入選(五句)

病室の 老いたる母に 春の風

高橋 洋子

病室の窓を開けて春の風が部屋中にいきわたる。老いゆく母君も、この春風で少し元気が出たかも。

山歴が 榎火に映える 顔の皺

森田 泰夫

いくつもの山を経験したマタギの生活が顔の皺に刻まれて榎火に浮き上がる。マタギが歩いた山の歴史でもある季語の榎火がよい。

粕谷邸 凛とたたずむ 梅の花

廣田 美由紀

豪農であった粕谷邸。建物も庭も当時がしのばれる。手入れの行き届いた庭の梅の花。

踏切を 待つ間のメール 風光る

宮川 修一

あるきスマホは危険だが、作者はしっかりとルールを守り、踏切りのバーが上がるまでの間を活用してのメール。風光の季語も良い。

岩と岩 すみれ踏ん張る 狭間かな

梅澤 輝雄

弱々しいようなすみれの力強さを発見した句。

健友旅の句

●特選(二句)

彼方へと 思いを馳せる 春の海

有手 千麻

春の海は、おだやかで日の光に満ちている。その海の彼方 遠く離れているもののことを思っている。詩心が感じられる。

鳥帰る 鉛の海に 雨降らず

寺西 幸雄

秋冬に日本に渡ってきた鳥が、春に北方の繁殖地に帰る鳥を鳥帰るといふ。鉛色した海ではあるが、雨が降っていない。繁殖地に帰る鳥の長旅である。雨が降らずによかったと、作者の安堵が伝わってくる。

●入選（三句）

懐かしの 友と語らう 花の宴

花の宴がもたらす、久々の友との会話。

榎本 一郎

野遊びの 園児ら豊洲の 運河沿い

春の一日を楽しく過ごす園児らの声が、豊洲の運河沿いに広がっている。

宮川 修一

タワマンの 合間に霞む 電波塔

季語の霞が効いている。

田中 範行

投稿の句

●一般（四十句） 選句依頼をした投稿句は、

この他に17句ありますが、紙面の都合上、掲載しておりません。

娘妻 母祖母何時も 春のひと

武居 正次

老犬へ 傘さしかけて

梅雨の朝

茂木 良一

春の日や 検査入院

明日まで

五月晴れ

写真の父の

笑い顔

米値上げ

梅雨空低し

足を止め

炎天や

傘が欲しいと

地蔵尊

雨止むや

命の限り

蟬しぐれ

川辺行く

妻の帽子に

赤とんぼ

青空に

蕾ふくらむ

散歩道

春まぢか

ゆきかこいとる

すいしや公園

古民家の

梅に飛び交う

小さき鳥

息はずむ

社殿の坂に

著莪（しゃが）の花

人形と

交はす微笑み

春の朝

子午線を

跨ぎて眺む

春景色

舞ひ落ちる

一枚（ひとひら）の花

たおやかに

幼子の

かたこと言葉

紙風船

昔懐かし

水流るる

水車小屋

一年の

四季を思わる

粕谷庭

青空に

晴れ輝やか

紅白梅

紅白の

梅が前座の

茶室かな

寒椿

刈田に並ぶ

水車かな

白梅や

三百年の

百姓家

老いた妻と

春をさがして

街歩き

紅白の

梅の香りに

鳥も舞い

碧空（あおぞら）に

富士をさがせど

春霞

岩瀬

雄一

●健友旅（十二句）

河岸の春 インバウンドで 大繁盛

春旅行 高ねの花の 海鮮丼

盟友と 語らい歩く 春の海

春寒（はるさむ）に 会話がはずむ

风光る 波間に走る 航跡や

豊洲市場（いちば） 現地集合

春の旅 マグロの解体 見たかった

春うらら 足湯に浸かる 新名所

おしゃべりを 止めし 欄干

花曇り 気持ちいきいき

新企画 不安いっぱい

春の旅

庭光きの 紅白の梅 日に光る

枝奥に ゆずの実隠し 春来たる

春うらら いにしえ香る 江戸の家

いぬふぐり 俳友達は 上（うわ）の空

春の日や 亀甲竹に 屋根光り

急ぎ足 寒波居座る ゆうげかな

残寒に 友と訪ねる 古民家や

鳥たちが 集いたわむる 梅の花

寒風や 芽吹き開花の 冬至梅

早朝の 売り子追いかけて 浅瀬汁

癒やさるる 桜吹雪の 日暮道

髪カット 鏡にうつし 春待ちぬ

橋の上 桜ちらちら 舞いにけり

空晴れて 今日退院 春うらら

河岸の春 インバウンドで 大繁盛

春旅行 高ねの花の 海鮮丼

盟友と 語らい歩く 春の海

寺西 幸雄

榎本 一郎

酒樂し

田中 範行

田村 弘治

赤塚 きみ

春の旅

春うらら

新名所

欄干

花曇り

気持ちいきいき

不安いっぱい

豊洲宴

大澤 ゆかり

春疾風

美由紀

青藤 栄

志津江

島田 あい

金井 信男

山田 常雄

菊川 雄二

浅瀬汁

日暮道

春待ちぬ

舞いにけり

今日退院

春うらら

大繁盛

海鮮丼

春の海

榎本 一郎

酒樂し

田村 弘治

赤塚 きみ

春の旅

春うらら

新名所

欄干

花曇り

気持ちいきいき

不安いっぱい

豊洲宴

大澤 ゆかり

春疾風

美由紀

青藤 栄

一般・旅の句それぞれに、お一人複数作品の投稿が可能です。まだ投稿されたことのない皆様も、お気軽に投稿してみませんか。会報部では多数の投稿をお待ちしております。健友事務局あてに、ハガキ・FAX・メールなどで常時受付をしていますのでお送りください。次回は、11月30日までの提出分の選句結果を、会報1月号送付と同時にお知らせする予定です。